教育

みかわ

第125号

副会長挨拶
三河女性役職者会会長挨拶
研究校紹介（豊田支部）
私の研究（刈谷支部）
学校自慢（高浜支部）
私のコレクション（知立支部）
研究大会・研修会の報告

三河教育研究会　平成30年10月1日

研究は持続可能なものに

三河教育研究会　副会長
加　藤　宏　基

本校（西尾中学校）が大切にしているのは持続可能な研究活動です。

そもそも研究とは、教師が自分自身の授業力向上のために行う自発的なもので、誰かに言われてやらされるものではありません。また、ある一定期間に行うものではなく、日常的・継続的に取り組むものです。

仮に、研究発表会という特別な一日の存在によって、その場しのぎや非日常的な研究となったら虚しい限りです。

何より、日々がんばっている子どもたちの学校生活のリズムが、大人の都合で設定する特別な一日によって乱されるようなことがあってはなりません。

貴重な時間を費やすべき対象は、研究発表会のための準備ではなく、子どもたちの学びを追跡し、よりよい授業づくりを模索する教師の営みです。

そこで、持続可能な研究活動のために、次の二点を考えました。

一つは、研究の進め方です。

・研究推進に携わる部員は四～五名に絞り、学年や教科のバランスよりも、個人の力量を優先する。

・研究推進の会議は時間割の中に位置付け、授業後には行わない。

・会議の概要は「研推記録」としてまとめ、毎週全職員に配付する。

・「研推記録」を元にした日々の意見交換を大切にし、研究全体会はできる限り減らす。

・教科ごとの議論が深まるよう、夏季休業から二学期末まで、職員室の座席を教科単位とする。

もう一つは、公開授業（研究発表）の方法です。

・午後の一～二時間の授業を公開し、その後に研究協議会を設け、授業者と参加者が直接議論できるようにする。

・体育館で行う全体会は割愛する。

・研究の概要は一方通行のプレゼンテーションにはせず、文章にまとめ、参加者が何度も見直せるようにする。

・研究協議会の記録は、参加者に配付し、議論の継続を図る。

ともすると、「研究」という言葉には、負の意識がつきまといがちです。この状況を何とか打破したい。本校の取り組みが学校の研究活動に対して一石を投じるものとなれば幸いです。

「年に一度の豪華な花束よりも、毎日置かれている一輪挿し」という発想。若い教師が増えてきた今だからこそ必要だと考えます。

子どもとともに学ぶ幸せ

三河女性役職者会　会長
兼　子　知　子

働き方改革が、喫緊の社会問題として取り上げられ、教職員の多忙化の現状がさまざまな形で報じられるようになりました。教職を希望する学生が減少傾向にあることも表面化し、教育現場は重大な危機を迎えています。

そもそも私たち教員は、子どもたちの健やかな成長を願い、そのために知恵をしぼり愛情を注ぎ、実践を重ねてきました。子どもたちの成長を見届けることで無上の喜びを感じ、その充実感を原動力に、また新たな気持ちで働く、進化する仕事人だと思います。

確かに今、多忙化を防ぐため、具体的な手を打たなくてはいけませんが、多忙化解消という名目のもと、これまで大切にされてきた「子どものため」の活動が、ことごとく縮小・削減されることには、正直心苦しく悩ましいものがあり、見直しには十分な検討が必要だと感じています。

毎年の恒例行事にしても、日々の授業にしても、子どもたちのためというのはもちろんのこと、大人（教師自身）も本気になって楽しめるものでなくては、感動は生まれないと思います。地域の文化や歴史、子どもたちの実態を踏まえた取組に対し費やす労力は、とても尊いものだと思います。

私事になりますが、若い頃先輩方に誘われて、特活の宿泊研修に参加したり、社会科の副読本づくりに関わったりしました。そこで素晴らしい先輩や指導方法に出合い、刺激を受けました。その後も、特別支援教育、道徳教育、図書館教育…と学ぶ機会に恵まれ、当時私の身近にいた子どもたちの教育に、少なからず生かせたのではないかと自負しています。よりよい活動を求めたからこそ、子どもとともに学び続けてこられたような気がします。

この三河には、若い教師を育てる文化が根付いています。教師自身が未熟さを自覚し「子どものため」に学ぶこと、学び続ける姿を示すことが、やはり大事なのではないでしょうか。社会が変わり、昔のようにとはいきませんが、多忙化の要因を見誤ってはいけません。

新学習指導要領の完全実施に向けて移行期の今、学びの在り方が問われています。新たな時代を生き抜く力を育むための指導力向上と多忙化解消。一見、両立が難しい動きのようですが、子どもとともに学ぶ幸せを感じながら、やはり、自らも進化し続ける教職員集団を目指していきたいと思います。

校研紹介

他者とともによりよく生きる若西っ子の育成
－子どもの心を豊かにする道徳科の指導と評価－

豊田市立若林西小学校

本校は、「他者とともによりよく生きる若西っ子の育成」を主題に道徳科の研究を進め、十月十六日に研究発表をします。

一　研究の必要性・方向性

全校児童三百六十六名、子どもは素直で元気なものの、全国的な傾向と同様に自尊感情の低さはみられます。子どもが多様な考えや価値を認め、より肯定的に自分をとらえるために、教師は一人一人の「よさ」を認め、励まし、伸ばす技量を高めることが必要です。道徳科は、多様な価値を実感し、実践力を育成する教科で、学校が目指す方向と合うため、市教委の研究指定を受けました。目指す子ども像は、「自分を見つめ、互いに認め合い、よりよい生き方を考える子」です。

二　研究推進での心掛け

研究推進で特に心掛けたことは、「提案性」「継続性」「子どもの姿」です。「提案性」に関しては、子どもの考えに寄り添い、子どもの問題意識を大切にした授業実践を軸に提案します。「継続性」に関しては、検定教科書使用元年に合わせ、教科書教材を中心に研究し、どの学校でも一年を通じて行える道徳科の授業を目指します。「子どもの姿」に関しては、授業を通して子どもの意識が変容・再構築する姿を、研究発表でご覧ください。

三　研究の概要

研究組織は、授業研究部、コミュニケーション部、評価・調査部の三部です。

授業研究部は、授業で大切にするキーワードを設定し、目指す授業のイメージとスタイルの共有を進めます。コミュニケーション部は、多様な考えを表出し認め合えるように、朝の時間を活用した名人タイム活動で伝える力・聴く力を育てます。評価・調査部は、授業評価と子どもの学習・成長評価に着目し、授業の振り返りキーワードの設定や、子どもを認め、励ます通知表の所見の書き方を提案します。

研究発表で研究の成果と課題を発信し、関連資料を学校ホームページで公開します。今後も、他校と情報を共有しながら、若林西小の道徳教育を推進します。

（文責・緒方　秀充）

教材と出会い、気になったこと・考えたことを発表

私の研究

粘り強く追究活動を続け、自らの力で新たな見方や考え方を生み出し、考えを深める生徒の育成
～１年理科「力と圧力」における単元構成の工夫と追究を支える教師支援の実践を通して～

刈谷市立雁が音中学校　青木　将司

一　はじめに

一学期、身近な事象を提示したところ、生徒が疑問を抱き、問題解決に向けて取り組む姿が見られました。しかし、追究活動を進めると、得られた結果が自ら考えたことと違ったものとなったとき、考えに行き詰まる様子が気になりました。そこで、考えに行き詰まったとき、教師との対話や仲間との意見交流を通して、自らの力で新たな見方や考え方を生み出し、考えを深めていってほしいと考え、実践に取り組むことにしました。

二　実践

第一時、オオオニバスの葉の上に乗っている子どもの写真を紹介し、生徒の「乗ってみたい」という思いから「友達を乗せられる葉のモデルを作り出そう」と単元を通した目標を設定しました。

第二時～第五時にかけて、グループごとに葉のモデル作りを行いました。このとき、材料や道具などをできるだけ生徒の要望に添うようにしました。追究活動が進むと生徒の中に浮力について疑問を感じ、教科書で調べる姿が見られました。しかし、アルキメデスの定理の解説を読んでも、その意味が分からずにいました。そこで、空のペットボトルを水槽に沈めたとき、どれだけ水位が上がってくるのか生徒と考えました。この現象を見た生徒は、ペットボトルに入る水の量だけ水位が上がると考えました。そして、この考えをきっかけに浮力と体積を関係づけることができました。葉のモデルの体積を計算し、友達を乗せる葉のモデルを考えることができました

三　おわりに

生徒が追究活動に行き詰まったとき、教師との対話を通して新たな見方や考え方に至ることができました。また、全体の場での意見交流においても、他のグループの考えを聞き、材料や形などについて新たな考えをもち、粘り強く追究活動に取り組むことができました。

葉のモデルを作り、生徒を乗せて浮かべた様子

学校自慢

学校の自慢は、地域の自慢

高浜市立高取小学校

「窓から見える風景　校庭を走る風
高いポプラの向こうに流れる稗田川
春は桜　菜の花　秋は彼岸花
見慣れたこの景色がぼくらの宝物さ」

この詩は本校の第二校歌とも呼ばれている「ひえ田川の歌」の一部です。

本校は、高浜市の北部に位置し、南に田園風景が広がる自然に恵まれた環境にあります。そして、その中心となっているのが運動場の横を流れる稗田川です。本校ではこの稗田川を生活科や総合的な学習の時間の教材として取り入れ、学習しています。

二年生の生活科「ひえ田川にはたからものがいっぱい」では、稗田川に出かけ、土手の植物やすんでいる生きものにふれあいます。どの子も目をきらきら輝かせ、「行ってきます」と大きな声で出かけます。四年生の総合的な学習の時間「ひえ田川となかよくしよう」では川遊びや上流探検を行います。その活動を通して、稗田川にすむ生きもの、水の汚れや環境の移り変わり、歴史等、自分のテーマを決めて調べるとともに、稗田川や周りの環境を守るために自分ができることを考えます。今年は稗田川の環境保全等に取り組んでいる地域の方々を招き、願いや活動の様子の話を聞きました。

このように、学校の自慢である稗田川の魅力を地域の方々も一緒に育ててくださっています。土手に子どもたちとともに彼岸花の球根を植えたり、定期的に草刈りをやったりしてくれます。冬には、川沿いを走る稗田川駅伝を開催してくれます。

今後も学校の自慢、地域の自慢の稗田川を楽しみ、守る学習や活動を地域のみなさんと共に進め、稗田川を地域の誇りと思う子どもたちが育つことを願っています。

（文責・池田　亙隆）

稗田川のたからものを探す子どもたち

私のコレクション

日本全国御朱印巡り

～やしろ＆おてらツアーズで神社仏閣の魅力発見～

知立市立八ツ田小学校　竹内　章宏

修学旅行で初めて京都・奈良の寺社を巡って以来、神社仏閣に心ひかれるようになりました。嵐山にある鈴虫寺を参拝する機会があり、それ以来、毎年のように京都へ足を運んでいます。一年中鈴虫の鳴き声が響く鈴虫寺では、わらじを履いた幸福地蔵様が願い事を叶えるために歩いて訪ねてくれるといいます。そんな折、ふと立ち寄った建仁寺で、風神雷神図を表紙にあしらった御朱印帳が目に留まり、思わず手にとったことが御朱印との運命的な出会いでした。

以来、御朱印帳を携え、やしろ＆おてらツアーズの始まりです。素敵な御朱印の数々もさることながら、寺社巡りのエピソードにも事欠きません。奈良の白毫寺を訪れた際は、道に迷って困っていると、どこからともなく現れた足けり自転車にまたがった幼い少年に無言で付かず離れず導かれ、いつの間にか白毫寺の門前に。東京で訪れた西新井大師總持寺では、偶然にも節分の行事が。豆まきの舞台に登場した顔ぶれは、歌手の川中美幸さんをはじめ、今が旬の梅沢富美男さん、さらには横綱白鵬関、そして最後が世界の北野武監督。こんな不思議で感動的な体験は御朱印のご利益なのでしょうか。私が受け持っている書写の授業で、書の見本として御朱印を紹介し役立てていますが、こんなエピソードを語ると授業はこの上なく盛り上がります。現在、西は鳥取、東は東京までの寺社で御朱印をいただいています。そうそう、番外編でハワイ出雲大社の御朱印も。各地でいただいた御朱印を眺めて心を癒しながら、御朱印巡り全国制覇に思いをはせています。

御朱印の数々　上段中央は関ジャニ∞の聖地赤羽八幡神社の御朱印帳

「授業で子どもを育てる」三河教育の推進

－平成30年度　研究大会・夏季研修会を終えて－

総務委員会

総務委員会では、五月十六日の定期総会以降、役員会・常任委員会を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・各種委員会の夏季研修会等の充実について、協議を重ねてまいりました。

本年度は、夏季休業中に十七の研究大会・研修会が開かれました。子どもが主体的に学ぶことのできる授業を目指し、自分自身、あるいは学校における授業改善のヒントを得ようと活発な議論が展開されました。秋以降には五つの研究大会が計画されています。研究大会・研修会で提案された指導案は、ホームページに掲載していきます。

授業力養成講座Ⅰを、西三河は八月二十一日に岡崎市総合学習センターにて、東三河は二十二日に豊川市音羽庁舎にて開催しました。約一四〇名の受講者が集い、熱心に研修が進められました。研究大会や研修会、授業力養成講座での学びをもとに、これからの三河教育の推進に生かされることを期待します。

なお、研究大会・研修会の運営に際し、関係市町村教育委員会・関係機関の方々にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

部会・各種委員会 研究大会・研修会の報告

国語

生きてはたらく言葉の力を育み、深く学び合う授業

平成三十年度　国語部会夏季研修会
期　日　八月七日（火）
場　所　豊田市福祉センター
参加者　四百七十九名
講演会　「『星の花が降るころに』のあれこれ」
講師　安東みきえ　氏

多くの先生方の参加を得て、午前中は七つの分科会に分かれて研究協議を、午後からは全体会と講演会を行いました。

午前の分科会では、研究テーマ「生きてはたらく言葉の力を育み、深く学び合う授業」に沿った実践について提案がなされました。協議会では、子ども同士が互いに深く学び合う授業づくりをどのように行うべきか、提案者の確かな実践をもとに、活発な議論が展開されました。

午後の講演会では、安東みきえ氏を講師にお迎えしました。講演では、中学一年生の国語の教科書に掲載されている「星の花が降るころに」に関するお話をうかがいました。物語の中に登場する、夏実と仲たがいをした「私」。「私」がこの先どんな人生を歩んでいくのかを考えさせられる結びに触れ、どんな人生にも価値があることを力強くお話ししていただきました。講演の最後には、安東氏の柔らかな声で、絵本の読み聞かせをしていただき、とても実りある時間を過ごすことができました。

講演される安東みきえ氏

深く学び合う授業づくりの工夫

豊田・寿恵野小　近藤　寿枝

午前中は、書写の分科会に参加しました。指導を日々積み重ねることや、学習手順を踏むことによって、子どもが主体的に取り組む姿を見ました。粘土での文字作りや、軟筆の絵筆を用いた練習など、子どもが深く学び合う授業づくりの工夫を知ることができました。

午後の講演会では、「星の花が降るころに」の作者、安東氏に出会い、心に響くお話を聞きました。「出会いと別れを繰り返す人生。永遠はないからこそ、今を生きる」。どの作品にも貫かれている安東氏の思いにふれ、教師である私が、作品を子どもにどう手渡すことができるか、言葉に向き合うことの大切さを感じました。

書写

平成三十年度　書写実技講習会
期　日　七月二十七日（金）
場　所　岡崎市竜美丘会館
参加者　四十四名
講演・実技講師　岐阜女子大学教授
中根　海童　先生

点画を意識する

北設・東栄中　篠原　由忠

今年度の書写実技講習会では、「二色の淡墨図」に挑戦しました。書写の教科書に載っている二色のお手本は、黒で書いた後に、上から朱で書いているものとばかり思っていたので、一度に書くことができると知り、大変驚きました。実際に書いてみると、自分の筆先の動きが、書いた後の朱墨を確認することでとてもよく分かりました。黒の墨の濃さや朱墨を付ける量の難しさはありますが、生徒が体験し、自分の筆先がどこを通っているのかを目で確認できるよい方法だと実感することができました。ただ文字を書くだけでは意識することが難しい点画を、生徒が意識できるよい方法を学ぶことができました。

書写実技に取り組む様子

社会

仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業（一年次）

平成三十年度　社会部会夏季研修会
期　日　八月三日（金）
場　所　岡崎市甲山会館
参加者　三百四十二名
講演会「新学習指導要領に見る社会科授業づくり」
講師　埼玉大学教授　桐谷　正信　先生
分科会　小学校　四分科会
　　中学校　五分科会

隔年で開催される三河教育研究会社会部会夏季研修会が、八月三日に開催されました。三河全域より多くの参加者が集い、盛会のうちに幕を閉じました。

講演会には、埼玉大学教育学部教授の桐谷正信先生をお招きし、本会の研究主題と関連して、新学習指導要領の考え方をもとに社会参画の在り方や授業づくりについてお話をしていただきました。これからの社会を生きていく子どもたちに、問題を解決していく力を養ってくことが求められていることや、生きてはたらく力となる授業づくりの必要性について、具体的な学習内容を交えて話してくださいました。また、お話は、これまで社会部会が実践してきたことが、これからの教育の流れにおいても継続できることであると価値づけていただくものでした。

講演会の後は、九つの分科会に分かれ、各地区から十八の実践が提案され、参加者との議論が繰り広げられました。桐谷先生も参観され、多数の実践発表がなされていることに感心しておられました。

私たち社会部会は、今回の夏季研修会や一年次の研究成果と課題を踏まえ、今後も研究に取り組んで参ります。

講演をされる桐谷正信先生

子どもたちに身近な教材開発

みよし・三好丘小　飯田　孔明

社会科の本質は、現在や過去の社会的事実をもとに、未来に向かってどう生きるか思考し実践することです。そのためには、もっと子どもたちが社会科を身近に考え意欲的に取り組むことが重要だと思います。今回の研修会は、地理学習における社会参画について考えるよい機会となりました。今回教えていただいたことを今後の授業研究に生かし、校内の教員にも学んだことを伝えながら、地域教材を生かす単元づくりに全力で取り組んでいきたいです。

理科

自然事象を主体的、協働的に追究し、豊かな心と創造力を培う理科学習

平成三十年度　理科部会夏季研修会
期　日　八月七日（火）
場　所　知立市文化会館
参加者　二百三十七名
講演会「水波・音波・光波は波であることを実験で確かめよう！」
講師　有限会社　ラド　戸田　一郎　氏

講演会では、水や音、光が波として伝わる様子について、演示実験を交えながら講演していただきました。縦波と横波の違いについては波の模型を使い、スリットを通過した光の道筋については、もぐさを焚いた煙を使うなど、参加者が遠くからでも確認できるように工夫して説明してくださいました。さまざまな波の事象を目の前で見ることができ、参加者全員がまるで教室で授業を受けているような感覚で戸田氏の講演に聴き入っていました。理科の授業では、子どもが自然事象を直接実感できることが大切であると教えてくださいました。そして、参加された先生方が、今後も子どもの心に火を点け続けることを願い、講演を終えられました。

分科会では、小学校下学年、小学校上学年、中学校において、それぞれ二つずつの実践について報告され、活発な協議が行われました。参加者からは、「すぐにでも実験したくなる教材を紹介していただき、参考になった」「単元を工夫することが、いい授業へつながることがわかった」と、今後の実践に向けて意欲的な意見をいただくことができました。

ご講演される戸田一郎氏

教師としての成長

高浜・港小　加藤　広規

自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、課題を追究していってほしいと願い、五年「電磁石の性質」の単元で実践を行いました。

本実践を通して、単元構想や教師の支援など、子どもの実態から目指す子どもの姿を達成するための方法を吟味することが、教師の力量の向上につながることを実感しました。

分科会では、私の思いも及ばないご意見をいただくことができました。今後の教師としての成長につなげたいと思います。

音楽

豊かに感じ　表現する子
～ともに学び、ともに楽しむ音楽の授業～

平成三十年度　音楽部会夏季研修会
期　日　八月七日（火）
会　場　岡崎市シビックセンター
　　コンサートホール　コロネット
参加者　百八十名
実技講習会「指揮法の基本と実践」
　講師　塚田　真夫　氏

本年度の研修会では、クラス合唱や全校合唱などの指導に、すぐに生かすことのできる指揮法の基本を学びました。

新任の先生から経験を積まれてきたベテランの先生まで、多くの先生が参加されました。隣の席の先生と手を重ねて打点の位置を確認したり、互いの指揮を見てアドバイスし合ったりする姿は、まさに、「ともに学び、ともに楽しむ」という音楽部会のテーマを具現化しているようでした。

「子どもたちが校内合唱コンクールや全校合唱に取り組むとき、発声指導だけでなく、しっかりと指揮の指導ができる先生であってほしい」と、塚田氏は熱く語られました。教師自身が学びを深めることが、子どもの力を伸ばすことにつながるということを、改めて実感する機会になりました。

塚田氏とともに指揮を振る参加者

研修会の後半では、『夢の世界を』や『大切なもの』という人気合唱曲を教材とし、楽曲の解釈やフェルマータの振り方など、具体的に、そして、丁寧に教えていただきました。参加者から「夏休み明けにこの曲を指導することになっているので、とてもありがたい」という声が聞かれ、塚田氏のご指導が、学校現場で指導する参加者のニーズにぴったりと合っていることが伝わってきました。

夏季研修会に参加して
安城・錦町小　渡会　深麻

塚田氏のご指導の下、実際に指揮を振りながら指揮法の基本と実践を学びました。『ぶんぶんぶん』一曲の中にも、子どもたちの表現を高めるポイントがたくさんありました。例えば、体の中心で振ることや、等速で動く「平均運動」と、落として弾むような「叩き」を意識することなどです。

塚田氏の指揮を見ながら自分も指揮を振ったのですが、「絵になるような指揮」をするのは難しかったです。また、指揮を見ながら歌っているうちに、自分があたかも塚田氏の生徒であるかのような気分になり、指揮に導かれて歌うというのはこういうことなのだと実感しました。

技術・家庭

よりよい生活に向けて、最適解を求め続ける生徒の育成

平成三十年度
　技術・家庭部会夏季研修会
期　日　八月三日（金）
場　所　幸田町民会館
参加者　百六十名
助言者　愛知教育大学教授
　　太田　弘一　先生
　愛知教育大学教授
　　青木香保里　先生

開会行事では、濵田康司部会長の挨拶に続いて、三河教育研究会副会長の浅井英雄先生にご挨拶をいただきました。

分科会では各地区の提案について、技術分野と家庭分野に分かれて、協議しました。技術分野では、西尾地区、新城地区の先生方に、家庭分野では、西尾地区、豊川地区の先生方に提案していただきました。どの地区でも、子どもが、問題意識をもって追究できるように、題材や単元構想が工夫されており、子どもの思いや考えを大切にした授業が展開されていました。また、子どもの考えを深めるための発問や視点の提示、学習形態の工夫などの教師支援の大切さも学ぶことができました。

分野別研修では、地区や経験年数をもとに小グループに分かれ、日頃の授業で困っていることを共有し、これからの授業づくりの在り方を話し合いました。一校あたりの配属人数が少なく、同教科の先生方と話す機会をもつことが難しいこともあり、普段の授業について活発な情報交換が行われ、大変有意義な時間となりました。

助言者の愛知教育大学教授の太田弘一先生、青木香保里先生から、新学習指導要領の実施に向けて、具体的な多くのご示唆をいただきました。

提案の様子

夏季研修会に参加して
岡崎・美川中　鈴木　尚美

西尾地区・豊川地区の提案では、子どもたちの思考の流れを大切にした単元構想の工夫により、考えを深めていく姿が伝わり、参考になりました。分野別研修会では、他地区の先生方と授業について交流をすることができ、とても勉強になりました。

今回の研修での学びを、これからの授業づくりにつなげていきたいです。

特別支援教育

一人一人の教育的ニーズに応じた教育のあり方をめざして

平成三十年度
特別支援教育部会夏季研修会
期　日　八月六日（月）
場　所　ライフポートとよはし
参加者　四百七十八名
講演会　「特別支援教育への期待」
講師　前豊橋市教育委員会教育長
加藤　正俊　氏

開会行事では、酒井洋一部会長、佐藤淑乃三河教育研究会副会長の挨拶に続き、豊橋市教育委員会教育長の山西正泰様からご祝辞をいただきました。

講演会では、講師の加藤正俊氏から、「子どもの輝く学びを創る」、「子どもの教育環境を整備する」という二つの視点で、たいへん示唆に富むお話をいただきました。子どもや保護者の思いを大切にすること、また、個に応じた入口支援と社会的自立に向けた出口支援の大切さなどについて深く学びました。

午後は、七つの分科会に分かれ、提案者の先生方から、明日からの実践にすぐに生かすことのできる発表がありました。また、グループ討議では、各分科会のテーマに沿っての意見交換や、先生方が日頃取り組まれている課題やその対策等についての情報交換がなされました。参加された先生方からは、「学んだことを九月から生かしたい」という声をたくさんいただきました。

ご講演される加藤正俊氏

すべては目の前の「この子」のために

豊橋・石巻中　杉山　良子

「ランドセルの中には何が入っていると思いますか」加藤氏の問いかけに、私は心の中で立ち止まりました。「家庭の空気が入っています」加藤氏は語り掛けるようにお答えになりました。「家庭の空気は皆違うのに、子どもたちを『特別支援学級の子』と、一括りにしてよいのか」私は思わず襟を正しました。「教師自身はいかに生きるのか。見えないところのあり方で真偽が決まる」私は心の中で再び立ち止まり、自分自身の生き方を省察しました。子どもに寄り添い、子どもの輝きを引き出し、子どもの声に笑顔で応える真の教師になりたいと思いました。

英語（外国語活動）

心豊かなコミュニケーションをめざして

平成三十年度
英語（外国語活動）部会夏季研修会
期　日　八月二日（木）
場　所　刈谷市総合文化センター
参加者　二百二十名
研究発表・研究協議
四分科会（小学校二、中学校二）
講演会　「目標八割：英語で理解し伝達する能力を高める」
講師　静岡大学教授
矢野　淳　先生

本年度の英語（外国語活動）部会夏季研修会が刈谷市総合文化センターで開催されました。各地区より多数の参加者があり、盛大に開催することができました。

開会式後、田原市立田原中学校の荒木裕美子先生、岡崎市立東海中学校の梅岡知充先生、高浜市立高浜小学校の武井友美先生、豊田市立大林小学校の福井優先生、以上四名の先生方の研究発表、そして、研究協議会を行いました。

分科会終了後、静岡大学教授、矢野淳先生にご講演いただきました。英語を使う際に完璧にこだわりすぎるのではなく、八割を目標に難しい言葉も優しい表現に言い換えてコミュニケーションできることを教えていただきました。また、単語をチャンク単位で覚える重要さや、音声学の視点から英語と日本語の違いを学ぶことができました。講演の内容は、具体例が多く、多くの先生方からも分かりやすかったとの感想をいただきました。

提案する武井友美先生

ご講演される矢野　淳先生

夏季研修会に参加して

刈谷・刈谷南中　山本　純一

第二分科会では、実際に英語を使用する場面を想定させるための工夫や、既習表現を活用して考えを伝え合う場の設定が、具体的な実践とともに発表されました。中長期的な視点をもった単元づくりや、話すスキルを身に付けるための帯活動など、今後の授業に役立つ手だてを学びました。

矢野淳先生の講演では、新学習指導要領を見据え、英語で理解し伝達する能力を高める工夫を学びました。まとまりのある意見や考えを伝えることができる生徒を育てるために、当事者意識を高める授業づくりに努めたいと感じました。

総合的な学習

自ら探究し、協働的に学び合う
総合的な学習の授業（二年次）

平成三十年度
総合的な学習部会夏季研修会
期　日　八月三日（金）
場　所　刈谷市総合文化センター
参加者　百八十七名
講演会　「学びと育ちがつながる
　　幼小接続を目指して」
講　師　鳴門教育大学附属幼稚園
　　園長　佐々木　晃　先生
分科会（提案と研究協議）
（提案地区）
安城・碧南・刈谷・豊橋・豊川
蒲郡・西尾・岡崎・知立・豊田

講演講師の佐々木先生は、幼児教育の概要から、小学校教育への連携、接続についてお話をされました。実践例をもとにした内容で、総合的な学習だけでなく、幼児期の教育と児童期の教育の持続性、一貫性を保証し、学びの基礎力を豊かにつなげていくことの大切さについて解説をしていただきました。

その後、分科会に分かれて、地域教材などをテーマにした十地区からの実践が提案されました。それをもとに分科会ごとに協議が行われました。各分科会に参加してくださった方々を含めた熱心な意見交換や、助言者の先生のご助言により、充実した時間を過ごすことができました。

ご講演される佐々木晃先生

夏季研修会に参加して
刈谷　富士松南小　河太　勇

分科会の一つ目の発表では、校区の川を題材に取り上げていました。子どもの理想とする川との「ずれ」の感覚を大切にした学習活動を通し、川の問題を自分の事として捉え、自分なりの方法で解決する道筋を学んでいました。自ら探究し、協働的に学び合う子どもの姿が見られました。

二つ目の発表では、災害にぜい弱な校区の防災を取り上げていました。地域との交流を重ねた児童たちは、災害前に自分たちができることを考えました。学芸会で災害時の避難方法、備蓄の必要性を訴えました。また、交流を通し、地域の方と積極的に関わるようになっていきました。このように、問題の本質を見極め、本気で学ぶ子どもの姿が見られました。

いずれも、探究的な学習における教師の役割や創造性が発揮された実践で、たいへん参考になりました。助言者の先生からは、新学習指導要領を踏まえた授業構想のポイントを教えていただきました。今回の発表やご指導で学んだことを今後の授業づくりに生かしていきたいと思います。

特別活動

豊かな心とたくましく実践する
力を育てる特別活動
～主体的・協働的に取り組む
集団活動を通して～（三年次）

平成三十年度　特別活動部会夏季研修会
第五回愛知県小中学校特別活動研究大会
期　日　八月七日（火）
場　所　田原市文化会館
参加者　百八十五名
講演会　「楽しく豊かな学級・学校生活を
　　つくる特別活動」
講　師　文部科学省初等中等教育局
　　教育課程課　教科調査官
　　安部　恭子　氏

講演会では、安部恭子氏よりお話をいただきました。これからの社会を生き抜くために重要な、自らのキャリア形成を図ることのできる子どもを育てる特別活動について、さまざまな実践例を交えながらご講演くださいました。

「特別活動の時間に経験したことは、大人になった今に最もつながると改めて思いました」「自分たちの力で何かをしなければと考え、行動できる学級経営を、今後より一層意識していきたい」という声がたくさん集まるなど、大変好評でした。

講演会後は、小中学校ごとに分科会を開催しました。四名の先生から提案をしていただき、活発な協議が行われました。参加された先生からは、「認め合う場の設定、話し合いの場の設定などの手立てを取り入れていきたいと思います」といった内容の感想が多数よせられました。

ご講演される安部恭子氏

人をつないで、人を育てる
豊橋・本郷中　加藤　拓

「人をつないで、人を育てる」講演冒頭の安部氏のお言葉に、頭にがつんと衝撃が走りました。さまざまな集団活動を通して、子どもと子どもをつなぐ。さらに、先生と子どもをつなぐ。特別活動にはそんな役割があるのではないかと感じました。

今回、提案者として実践発表をさせていただきました。発表に向けて実践をまとめ直す中で、新たな成果を発見したり、子どもたちの意外な一面に改めて気付いたりすることができました。

考えてみると、集団の中での「つながり」があったからこそ活動が広がり、子どもたち一人一人の成長につながったのだと思います。また、多くの先生方からのアドバイスは、自分にとっての新たな学びになりました。今後も「つながり」を大切にした実践に取り組んでいきたいと思います。

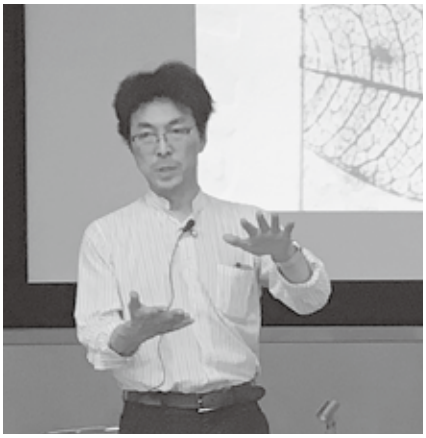
造形

子どもの想いが広がる造形教育

平成三十年度　造形部会夏季研修会
期　日　八月三日（金）
場　所　おかざき世界子ども美術博物館
参加者　七十八名
実技講習　「小中学校の授業実践に生かせる紙版画」
講師　愛知産業大学准教授　山口　雅英　先生

本年度は、紙版画の技法を研究されている愛知産業大学デザイン学科の山口雅英先生を講師に招き、実技講習を行いました。

紙版画の制作では、汚れたり、準備・片付けが大変であったりしますが、スプレー糊やアルミホイルを効果的に使うことで改善できる制作方法を学びました。制作を行う中で、効率的な面だけでなく、色鮮やかで、素材のよさを生かせる技法の提案は、参加者から、役に立つと好評を得ました。また、今回の実技講習会で、紙版画の表現方法の幅が広がりました。


版画の魅力について語る山口雅英先生

プレス機を使っての制作の様子

やっぱり版画は楽しい！

豊橋・つつじが丘小　白井　泉

版画の醍醐味はなんといっても、版から紙をめくる瞬間です。しかし、紙版画やコラグラフでは、瞬間接着剤を乾燥させる時間や素材の剥がれが問題でした。山口雅英先生から教えていただいた、アルミホイルやドライポイントプレートを使った技法によって、それらは解決されました。タンポを使って油性カラーインクで思ったところに彩色したり、濃淡を調節したり、また、プレス機・足踏み刷りで素材の繊細な調子まで刷りとったりできるので、参加者は夢中になって試していました。

山口先生から「いいですね！」とおっしゃっていただくと、とてもうれしくなりました。子どもたちのよさを見つけ、声をかける大切さも改めて感じました。

生活科

自らの生活を切り拓く子ども

～子どものつぶやきに耳を傾け、対話を大切にして、思考を深める授業～

平成三十年度　生活科部会夏季研修会
期　日　八月七日（火）
場　所　刈谷市総合文化センター
参加者　二百名
講演会　「新学習指導要領と生活科の一層の充実」
講師　文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官　渋谷　一典　氏

本年度の三河教育研究会生活科部会夏季研修会は、刈谷市にて約二百名の参加者を迎え、開催することができました。

三つの分科会では、郡市代表の六名の発表者から、対話を大切にして思考を深めることを目指した意欲的な実践レポートが提案されました。参加者からは今後の実践の参考になる、という多くの声を聞くことができました。

三名の助言者（加納誠司先生、久野弘幸先生、神谷裕子先生）からは、提案実践の具体的な場面を取り上げながら、思考を深めていくための手だてや支援について、今後の実践を深めていく上での貴重なご助言をいただくことができました。

講演会では渋谷氏が、新学習指導要領のポイントを踏まえ、今後の生活科で大切なことやカリキュラムマネジメントなどについて、分かりやすく丁寧にご講演をしていただきました。

ご講演される渋谷一典氏

提案を通して

刈谷・東刈谷小　永田　結香

今回の実践では、身近にあるものを使って遊びを作る、周りの人たちと関わり合う中で自分自身の成長を実感することをねらいとしました。分科会では、参加された先生方からのご意見をいただき、実践を見つめ直すことができました。

また、愛知教育大学の加納先生からもご助言をいただくことができ、生活科の学びのプロセスについて、仲間づくりを意識することの大切さなどを考えるよい機会となりました。

実践では同学年だけではなく幼稚園児と交流することで、子どもたちが主体的に活動することができました。今後も発達段階に応じた交流の在り方を探りながら、研究を進めていきたいと思います。

保健体育

課題に気づき、解決に向けて 主体的に活動する体育学習（三年次）

平成三十年度
保健体育部会夏季研修会
期　日　八月八日（水）
場　所　岡崎市民会館（甲山会館）
参加者　三百七名
講　演　「主体的・対話的で深い学びの授業づくりに向けて」
講師　日本体育大学教授
今関　豊一　先生

今関豊一先生には、新学習指導要領の目指す、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業をどのようにつくるかを、実践例を示しながらお話しいただきました。参加者の先生方からは、「全員が考え、実践するために発問が大切だと学んだ。実践していきたい」という声が多く聞かれ、実りの多い講演会となりました。

研究協議会において、小学校部会では、課題解決に向けて仲間と関わり合いながら活動する「フラッグフットボール」の実践が、中学校部会では、課題に気付き、課題解決に向けて、主体的に運動に楽しむことをねらった「ダンス」の実践が提案されました。

ご講演される今関豊一先生

参加者からは、質問や意見が出され、充実した協議会となりました。また助言者からは、実践に即したご助言と今後の実践に役立つお話をいただきました。

保健体育部夏季研修会に参加して

岡崎・六ツ美北部小　鈴木　隆

日本体育大学教授である今関豊一先生のご講演から、新学習指導要領で大切にしなければならないことをたくさん学ばせていただきました。子どもたちの主体的・対話的で深い学びのために、全員に思考・判断させる発問づくりや、予想したことを十分に経験できるような授業展開を構築することを、これからの授業づくりで大切にしていきたいです。

小学校部会では、渡邉先生の実践や参加した先生方のご意見をもとに、課題に気付かせるためにどのような手だての工夫をしているか、また、どのようにすると課題解決を主体的に取り組めるかについて協議しました。上原先生のご助言からは、子どもが課題に気付くために、ルールを変えずに繰り返しゲームをさせることや、効果的にＩＣＴを活用するためには、課題意識をもった動きを撮影することが必要であることなどを教えていただきました。

学習情報

ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション

平成三十年度　ＩＣＴ活用研究会
期　日　八月三日（金）
場　所　新城市文化会館
参加者　二百二十名
提案者および発表テーマ
①「ＳＮＳやインターネットの特性を理解し、望ましい使い方ができる生徒の育成」
豊橋・南稜中　奥野　靖章　先生
②「どう関わる?ＳＮＳの向こう側の人」
蒲郡・形原中　堀内　智晴　先生
③「コンピュータを利用した数学の授業展開」
刈谷・依佐美中　村井　琢　先生
④「デジタル教科書を利用した授業展開について」
碧南・南中　牧田　英士　先生
⑤「高浜市のＩＣＴ環境と、その授業展開について」
高浜・翼小　熊澤　悠介　先生
助言・講評
岡崎市立宮崎小学校長
岡　秀之　先生

各地区から、情報モラル教育やＩＣＴ機器を活用した授業実践など、児童生徒の実態を捉えた内容が発表されました。また、研究協議では、発表者と参加者の活発な意見交換が行われました。

助言者の岡先生からは、五つの提案それぞれに的確なご助言をいただきました。また、知識を教えることと、心を育てることを両輪に、子どもたちが効率よく、楽しく学ぶために、情報機器のよさを生かした授業改革を行っていくことの大切さを教えていただきました。さらに、情報モラル教育において、保護者との関わりについても、ご自身の経験をもとに分かりやすくお話しくださいました。今後の実践に役立つ研修の機会となりました。

助言・講評をされる岡　秀之先生

情報社会の教育を支えるために

豊橋・南稜中　奥野　靖章

本研究会では、情報モラル教育の実践や情報機器を効果的に使用した教科指導の実践報告が行われました。

社会の情報化が進展する中で、子どもたちに「情報モラル」について指導することが必要となっています。学習情報主任として、子どもたちに指導するだけでなく、いかに保護者と連携して情報モラル教育を進めていくのかが重要だと思いました。

今夏、豊橋市の中学校では、タブレット端末が導入されました。既に導入されている他地域の実践を参考にして、効果的な使い方を模索していきたいと思います。

養護教諭

未来に輝く子どもをはぐくむ
養護教諭の専門性と役割の追究

第二十九回愛知県養護教育研究大会
期　日　七月三十一日（火）
場　所　日本特殊陶業市民会館
参加者　千二名（三河部四六九名）
講演会　「みんながつくるみんなの学校」
　　－すべての子どもの学習権を保障するために、養護教諭だからできること－
講師　大阪市立大空小学校初代校長
　　木村　泰子　先生

研究発表では、知多南養護教諭部会から『感染症に強い学校づくり－「うつらない力・うつさない力・広げない力」の育成を通して－』をテーマに、感染症拡大防止に向けて、迅速かつ組織的に対応できる教職員への研修や児童生徒への保健教育について発表がありました。豊川市養護教諭部会から『「つなぐ　広める　やってみる」を意識した健康教育の推進者をめざして－「いのちを大切にする子どもを育てる学習プログラム」を核にした取組－』をテーマに、保健主事・養護教諭合同研修会などを通した校内推進について発表がありました。両地区とも、養護教諭の力量向上のための研修や組織で健康教育を推進していて参考になりました。安城市立明和小学校長、酒井多香子先生の特別講話『今、思うこと」－先輩養護教諭から託された「思い」を繋げるために－』から、養護教諭として培われた力は学校経営に反映させることができるという思いをもちました。

調査研究報告「養護教諭としての専門的力量と資質向上を目指して－養護教諭の専門性を生かしたリスクマネジメント－」では、調査結果報告と実効性のある危機管理マニュアルを整備するために、学校全体でシミュレーション研修に取り組む必要性を確認しました。

木村先生の講演では、「トラブルを生きた学びに変える」という言葉が心に残りました。子どもに対する見方や考え方を少し変えて、居場所をつくることが「みんなの学校」につながると学びました。

ご講演される木村泰子先生

愛知県養護教育研究大会に参加して

豊橋・磯辺小　安藤　智子

研究発表では、地区で共有できる動画などの資料や、子どもたちの将来を見据えた九か年を通した「いのちの学習プログラム」など、魅力ある実践の発表を聞くことができました。このようなすばらしい実践が県内で共有できると養護教諭の力量がさらに向上すると感じました。

今日の発表を参考に執務を見直して取り組みたいと思います。

今後の研究会のご案内

＊第56回愛知県道徳教育研究大会名古屋大会
「教科化時代を迎えた道徳授業の創造」
10月12日（金）名古屋市立西築地小学校
　　名古屋港ポートハウス
　　ポートビル

＊第56回愛知県へき地教育研究大会
「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成－学校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実－」
10月23日（火）南知多町立篠島小学校
　　篠島中学校

＊愛知県家庭科教育研究会岡崎大会
「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」
10月31日（水）岡崎市立常磐小学校

＊愛知県統計教育研究発表会・講演会
「生きる力を育てる統計教育」
11月27日（火）愛知県図書館

＊愛知県生徒指導研究大会
「自己指導能力と社会性を高める生徒指導を目指して」
1月23日（水）ウインクあいち

編集後記

西日本を中心とした豪雨と逆走台風。そして、全国各地で気象庁が「災害級」と認識する猛暑が続きました。夏休み中のプール開放や屋内外での活動が中止・制限されるなど、「想定外を想定内に」が通用しづらい、異常気象の夏でした。

今夏も、各部会・委員会による研修会が三河各地で開催されました。積み重ねられた日々の教育実践の報告をもとに、熱心な研究協議が行われました。参加された会員からも、有意義な研修会であったという多くの声を聞くことができました。今年の実りをより豊かにするための着実な営みの場となりました。

実践を通して情報交換を重ねながら、その成果を目の前の子どもたちに反映させ、教育効果を高められるよう願っています。今号は、こうした夏の研修会の概要を報告し、記録としてとどめました。秋から年度末のまとめに向けて、さらなる充実への足がかりになることを期待します。

◆表紙の写真◆
「はっけよい！（三吉小夏場所）」
撮影　みよし市役所
　　政策推進部広報情報課
　　近藤　紗帆　さん

◆カット◆
愛知教育大学附属特別支援学校
　　神谷　宜欣　先生